

# 東濃社会教育だより

## Plus

### — 研修会 —

岐阜県恵那県事務所  
振興防災課 振興防災係  
社会教育担当: 牧野 賀一  
〒509-7203  
恵那市長島町正家後田 1067-71  
TEL: 0573-26-1111 内線 210

## 東濃地区社会教育振興協議会研修会を開催しました

8月20日(火)、苗木交流センターにて、「令和6年度東濃地区社会教育振興協議会研修会」を開催しました。毎年8月中旬に開催するこの研修会は、東濃5市の社会教育関係者が一堂に会して、実践発表や意見交流を行います。この活動を通して、主体的に地域にかかわり、地域を創ることができる人の育成をめざしています。



東濃地区社会教育振興協議会研修会  
<社会教育委員・公民館職員表彰>

今年度はテーマを「人とのつながりで育む地域づくり」とし、東濃5市の社会教育にかかわる活動の概要について事務局でまとめて発表を行い、その後2市の実践発表を行いました。後半は、参加者の皆さんを小グループに分け、意見交流会を行いました。参加者の皆さんに発言いただく時間を昨年度より長く設けました。その結果、活発な意見交流をしていただき、大変実りある研修会となりました。本会の内容について感想とともに紹介します。

### <東濃地区5市の活動報告を聞いて>

- ・コミュニティ・スクール担当として、なかなか他市の実施状況を知る機会がなく、その必要性を感じています。あとの意見交流にもつながりますが、こうした機会に他市の様子を知ることができるのはとてもありがたく、参考になりました。(瑞浪市：行政担当者)
- ・5地区の特色がよくまとめられており、各市の実践を社教や公民館、学校運営協議会の運営に活かしていくことのできる報告でした。(中津川市：学校関係者)

### <実践発表1「瑞浪市の地域学校協働活動の推進」を聞いて>

瑞浪市社会教育委員会 代表 加藤 一哉 氏  
瑞浪市社会教育委員会 副代表 伊藤 孝一 氏

- ・瑞浪市の発表からは、単にイベントを行うだけでなく、「子どもを育てる」という視点に立って、子どもに考えさせる、子どもに役割を与えるなどの取組が素晴らしいと感じました。(中津川市：社会教育委員)
- ・三課合同会議があることで、あらゆる社会教育団体や市民に対して、統一したスタンスで共同支援が行われている点や、キーパーソンとなる支援員を置いている点が素晴らしいと思いました。(中津川市：学校関係者)
- ・コミュニティ・スクールの推進を図るには、行政との連携や行政からのバックアップが重要であることが分かりました。コーディネーターがきちんと位置付けられており、コーディネーターを中心としてコミュニティ・スクールが推進されているところがとても参考になりました。(土岐市：学校関係者)

## <実践発表2> 「肥田町民運動会から肥田町みんなのフェスティバルへの変貌」

土岐市立肥田公民館  
土岐市立肥田公民館

館長  
主事

川喜田 健司 氏  
國行 美知世 氏

- ・地域の特性に合わせた活動のよさを改めて感じました。やりたいことを「できる」にかえるための知恵や工夫が詰まった取組だと感じました。でも、そうすることでよりよい取組になるとわかりました。(中津川市：学校関係者)
- ・地域住民の繋がりを大切にフェスにシフトする時に、町民からアイデアを募集し数値化することで当事者として参加をしむけたところ。みんなで考えてみんなで行う、楽しむという流れ。成功体験が未来を創ると思った。(恵那市：公民館関係)
- ・地域行事を時代にマッチさせるための切り口が参考になりました。私の地元は運動会をずいぶん前に廃止しました。今日の発表を知っていたら違った行事ができていたと思います。何かの時には参考にさせていただきます。(中津川市：社会教育委員)

## <指導講評> 岐阜県県民生活課生涯学習企画監 安藤由美子氏

持続可能な地域づくりのヒントを学びました。

### 瑞浪市の発表より

学校の統合を乗り越え、活動を推進された県内でも稀有な成功例。なぜ、このような取組ができたのか。その要因を3点。

○統括コーディネーターや、地区推進員の支えがあるため、校区間の差が解消されているのではないかと。

○三課合同会議の存在：明確な役割分担がされつつ、課題点に関しては、分担を越えて連携が図られている。正直な議論がなされ、三課間の信頼感がうかがえる。

○社会教育委員の力を十分いかす：動ける社会教育委員さん方。地域学校協働活への参画はもちろんのこと、関係機関(団体)との強い連携を図り活動を進めている。

取組の中で課題点は出てくるが、その課題そのものが次元の高い課題であった。

### 土岐市の発表より

PDCA サイクルを活用し、持続可能なイベントの運営へ。これが成し遂げられた要因を6点。

○目的理解：新たな形でのイベントの継続ができたのは、イベントの価値(目的)が理解されている。フェスティバルを通して何を狙っているのかが明確になっているから。

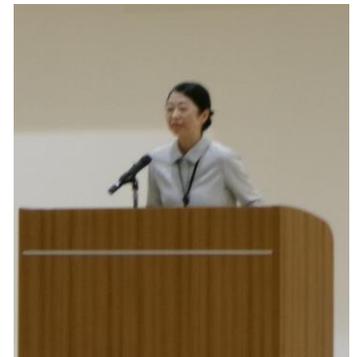
○参画：町民から広くアイデアを集め、町民の参画を実現している。

○視点の可視化：イベント検討委員会における住民の意見を集約、分析するために評価票を活用し、数値をもとに話し合いを進めている。

○緩やかな移行：無理なく運営できる形を検討し、実施している。イベントの運営に柔軟性をもたせている。

○公民館まつりとのコラボレーション：目的が重なる行事であれば、つなげたり、重ねたりできる。

○振り返り：より幅の広い年代が参画できる形で実施されている。今後、自走していける形で運営されている。



< 令和6年度東濃地区社会教育振興協議会 >

事務局は恵那県事務所振興防災課及び中津川市にあります。 FAX 0573-25-7129

TEL 0573-26-1111 (内線210) Eメール:[makino-yoshikazu@pref.gifu.lg.jp](mailto:makino-yoshikazu@pref.gifu.lg.jp)